

令和6年度 朝日小学校 前期学校評価結果・分析・改善策

		上段：児童	中段：保護者	下段：教職員	A+B	A	B	C	D	分析	今後の重点取組・方策		
1	授業	授業はわかりやすい。	95	44	51	4	1	○昨年度同様、すべての項目において、AB評価が90%を超えているため、概ね良好と言える。教職員の日頃の教材研究及び教材の工夫が結果につながったと考えられる。 ○教職員アンケートについてもAB評価が100%とねらいを明確にした教材研究及び授業改善の意識が高い。 ▲保護者アンケートのCD評価が約9%となっている。授業で学んだ学習が家庭学習で定着できていなかったと捉えた保護者がいたと考えられる。					
		お子さんは、授業はわかりやすいと思っている。	91.1	43.1	48	8.1	0.8						
		ねらい（育みたい資質・能力）を明確にした授業を行っている。	100	50	50	0	0						
2	伝え合い	自分の思いや考えを友達や先生に 進んで伝えている。	90	48	42	8	2	○児童・教職員評価ともに、AB評価が90%を超えている。特に児童のA評価が75%であった。教職員が日頃から伝え合う場を意識して取り入れていることが伺える。 ▲保護者評価でD評価は0%だが、児童・教職員評価に比べてAB評価が低い結果となっている。授業での取組と日常生活との結びつきが弱かったためだと考えられる。					・今後も、月1回の全校朝会において、学習目標を「考えを伝え合う」ことを基本に伝え、児童と教職員で共通理解を図っていく。また、各学級で教職員が児童と共に学習目標を具体的に決め、学校生活全般において、その目標を意識していくよう働きかけるとともに、定期的にふり返しを行っていく。 ・2学期以降、児童が考えを伝え合う姿をホームページや学年だより等を通して伝えたり、授業参観でペアやグループ交流を取り入れた授業を行ったりして保護者に伝えていく。
		お子さんは、進んで自分の思いや考えを相手に伝える力が身につけている。	84.2	22	62.2	14.2	1.6						
		相手に自分の思いや考えを進んで伝えるよう指導している。	95	75	20	5	0						
3	聞く	友達や先生の話最後まで聞いている。	92	55	37	6	2	○児童・教職員評価ともに、AB評価は90%を超えており概ね良好だといえる。特に、教職員評価はA評価が80%であり、話を最後まで聞く指導の意識が高まっているといえる。 ▲保護者CD評価が約16%となった。授業では聞く意識が高くなってきたが、学校で身に付けた力を生かす力は弱いと考えられる。児童の聞く意識が高まるよう、学校生活全体を通して今後も指導していく必要がある。					
		お子さんは、話を最後まで聞く力が身につけている。	84.6	27.6	57	13.8	1.6						
		話を最後まで聞くように指導している。	100	80	20	0	0						
4	家庭学習	家庭学習・宿題や自主学習に毎日取り組んでいる。	78	43	35	16	6	▲児童・保護者・教職員評価ともにD評価が5%以上いる。家庭学習の習慣が十分身に付いているとはいえない状況といえる。学年に応じた家庭学習の質と量を見直すとともに、未習慣児童への個別の支援を強化していく必要がある。					・自主学習において、2学期以降も自学ノートによる学力向上を目標として、児童玄関前の「自学の広場」を月1回更新し、児童の良い取組のモデルを可視化していく。 ・未習慣児童へは、2学期以降、担任が該当児童と個々に応じた質と量を話し合い、児童自身が自己決定することで最後までやり切る経験を積ませていく。また、保護者と連携していき、少しでも向上が見られたときには評価し、自己肯定感をもたせ、家庭学習への意欲が高まるようにしていく。
		お子さんは、家庭学習（宿題や自主学習）の習慣が身につけている。	76.4	39.4	37	18.3	5.3						
		家庭学習（宿題や自主学習）の習慣が身につくよう指導している。	95	60	35	0	5						
5	集団生活	いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	87	59	28	5	8	○児童・保護者AB評価の割合が昨年度後期とほぼ同じ割合で約90%、教職員A評価が80%という結果であり、教職員も児童が安心して過ごせるように意識して指導してきたことが伺える。 ▲D評価の児童・保護者も一定数認められるので、アンケートや観察、面談を通して、いじめが懸念される案件を見落とさず、丁寧に対応していくことが大切である。					・2学期以降も月1回の「心の相談アンケート」や児童面談等を行い、児童の不安感に寄り添った丁寧な聞き取りを行っていく。教員の日々の見取りを大切に、児童理解の会や学年会などを通して、全教職員で情報共有を図るとともに、いじめにつながる案件があった場合は、迅速かつ丁寧に組織的な対応をしていく。
		お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	92.7	57.7	35	6.1	1.2						
		子どもたちが、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごせるよう指導している。	100	80	20	0	0						
6	集団生活	学校は楽しい。	85	54	31	10	5	○児童・保護者・教職員AB評価は、ともに85%以上ある。ほとんどの児童が楽しく学校生活を送っていることが伺える。 ▲児童のAB評価は昨年度後期に比べ-5.6%、保護者は+3.4%であった。保護者の肯定的評価が93.8%に対して児童は85%と差がある。また、D評価も2%いるので、楽しくない理由を聞き出して該当児童に寄り添い、全員が楽しいと感じられる学校作りをめざす必要がある。 ▲児童・保護者のA評価が54%もあるのに比べ教職員のA評価が5%と極端に低い、まず教職員が自信をもって児童に向かい合い、楽しい学校になるよう指導していくという気構えが必要であることが伺える。					・児童が学校生活の中の様々な場面で自己肯定感を高めることができるように、まずは教材研究の時間を確保し、分かりやすく楽しい授業づくりに努めていく。また、2学期以降、授業の中でも「いいね、ナイス、ドンマイ」などの声かけを教師が率先垂範し、児童の自己有用感が得られるよう意識していく。 ・児童一人一人を認めていく機会が増えるように、2学期以降も教師から児童へ、児童同士の「ほめらレター」の取組を全校で推進し、積極的な生徒指導を行っていく。
		お子さんは、学校は楽しいと思っている。	93.9	54	39.9	5.3	0.8						
		子どもたちは、学校で楽しく過ごしている。	95	5	90	5	0						
7	挨拶	学校や家庭、地域で進んであいさつしている。	91	65	26	7	2	○児童・教職員評価ともに、AB評価が90%を超えている。教職員が良い挨拶を価値づけ、児童も進んで挨拶をしてきたことが伺える。 ▲保護者のA評価が児童・教職員に比べて約半分以下の37.3%となっているので、さらに学校と家庭、地域が連携して挨拶を向上させていく必要がある。					
		お子さんは、学校や家庭、地域で進んであいさつをしている。	83.8	37.4	46.4	15	1.2						
		率先垂範であいさつをし子どもたちの良いあいさつを価値づけている。	100	75	25	0	0						
8	言葉遣い	思いやりのある温かい言葉で話している。	89	42	47	9	2	○教職員A評価が75%と意識して思いやりのある温かい言葉遣いで話せるように指導していることが伺える。 ▲保護者・児童のA評価が低く、教職員の指導の成果が出ていない様子が伺える。保護者のCD評価も約16%もあり、保護者も言葉遣いの粗さを感じていると分析できる。心無い一言が児童の良好な友達関係を妨げることもあり、楽しい学校、安全・安心な学校作りのためにも思いやりのある温かい言葉遣いが定着するように粘り強く指導していく必要がある。					・2学期以降も朝の声出しの言葉を始めとして、互いを認め励ます「ふわふわ言葉」が学校生活に浸透するように、教師が率先して遣ったり児童の温かい言葉遣いを価値づけたりして、一人一人が温かい言葉が話せるように指導していく。 ・2学期当初の学級指導や学年集会、道徳の時間に、児童と共によりよい言葉遣いについて考える機会を確保し、温かい言葉遣いを意識できるように働きかけていく。 ・2学期以降も、人を傷つけるような言葉を遣いを見逃さずに指導していくとともに、教師自身が手本となるような温かい言葉遣いを心がけていく。
		お子さんは、思いやりのある温かい言葉で話している。	85.8	25.2	60.6	12.2	2						
		子どもたちが、思いやりのある温かい言葉で話せるよう指導している。	100	75	25	0	0						
9	人間関係	お互いの良さや違いを認め合い、粘り強く友達と一緒に活動している。	95	53	42	4	1	○児童・教職員評価ともに、AB評価が95%を超えている。教職員も児童も良い姿を価値づけ、進んでほめらレター等を活用してきたことが伺える。 ▲保護者のA評価が低く、教職員・児童の取組の成果が出ていない様子が伺える。家庭での声かけやがんばりを認められるような取組を考えていく必要がある。					
		お子さんは、お互いの良さや違いを認め合い、粘り強く友達と一緒に活動している。	90.7	37	53.7	9.3	0						
		子どもたちが、お互いの良さや違いを認め合い、粘り強く友達と一緒に活動できるよう指導している。	95	70	25	5	0						
10	運動	授業中や休み時間などに体を動かしている。	89	62	27	8	3	○保護者のAB評価の割合が昨年より9%増加しており、大幅に上がっている。 ▲児童・教職員評価ともに、AB評価が昨年度よりも低下している。児童はよく長休み・昼休みに運動場や体育館で遊んでいるが、今年度から昼休みが短くなったこともあり、遊ぶ時間が少なくなったと感じていることが考えられる。1校1プランやスポチャレについて教職員へのさらなる呼びかけや周知をしていく必要がある。					・2学期以降も、体育の時間には、体を動かす時間をできるだけ確保していく。また、スポチャレなどにも継続して取り組んでいく。 ・全校で体を動かす縦割り行事や持久走等の運動週間を企画し、保護者にも積極的に発信し周知していく。
		お子さんは、学校や家庭、地域で体を動かしている。	87.4	53.7	33.7	9.8	2.8						
		子どもたちが、1校1プランに基づき体力を向上できるよう指導している。	80	30	50	20	0						
11	地域体験	わたしたちが住んでいる地域について、体験などを通して学習している。	83	44	39	11	6	○総合的な学習の時間や生活科で、どの学年でも地域について学習を進めることができていたため、職員評価の結果はA+Bを合わせて95%と高い。 ▲地域について学習を進めているが、児童・保護者にD評価が一定数いることも事実である。さらに、体験活動を充実させ、愛着がもてるような工夫が必要である。					
		お子さんは、学習を通して地域への愛着をもっている。	80.5	29.3	51.2	17.5	2						
		子どもたちが、地域への愛着がもてるよう地域の人・もの・ことを活用して学習を進めている。	95	50	45	5	0						
12	業務改善		0				○日課表を変更したり、会議の回数を減らしたり、研修時間を短くしたりするなどして、業務時間の確保を進めた結果、昨年度より時間外勤務は毎月減ってきている。 ▲C評価が27.8%と業務が改善されている実感に乏しい教職員が一定数いる。どうしたら効果的に働くことができるか、一人一人が自己目標を設定し、意識していく必要がある。					・2学期当初、一人一人に自己目標を設定してもらい、月ごとに振り返りを行っていく。 ・教育課程の変更、主任会議の削減、行事の精選等を行い、子供と向き合う時間や教材研究の時間を確保していく。	
			0										
		子どもたちによりよい教育を行うため、業務改善を意識して効率的に働いている。	72.2	27.8	44.4	27.8							0